

ゆく川の流れば絶えずして、

しかも、もとの水にあらず。

よどみに浮かぶうたかたは、

かつ消えてかつ結びて、えしく

とどまりたるためしなし。

方丈記

MEMO

鴨長明による鎌倉時代の随筆。日本中世文学の代表的な随筆とされ、徒然草や枕草子とならぶ、「古典日本三代随筆」に数えられる。